

エジプトでの C 型肝炎の流行

2010 年 11 月 8 日 ProMed 情報 (Los Angeles Times)



最近発行された有名な米国医学雑誌 (Proc Natl Acad Sci USA, 2010 Aug 17) によると、エジプトは世界で最も C 型肝炎の罹患率が高い国で、毎年 50 万名以上が C 型肝炎ウイルスに感染しており、その原因は低レベルの健康管理と誤った医療衛生であるとのこと。毎年、国民 1,000 名あたり約 7 名が感染しており、これはひとつの国として最も高い感染率です。エジプトでの C 型肝炎の流行は 1970 年代に遡ります。当時、ナイル川デルタ地帯 Nile Delta およびナイル川上流 Upper Egypt の保健当局が、水媒介疾患であるビルハルツ住血吸虫症 bilharzia の感染防止目的に、滅菌していない注射針を使用し駆虫薬を投与したことにより、C 型肝炎の感染が広がったと考えられています。エジプトウイルス肝炎委員会は、C 型肝炎ウイルスの感染率は 9.8% と発表していますが、実際の数字は 15~20% と多くの医師や研究者は指摘しています。患者の多くは、田舎に住む貧しい国民です。

〔ProMED 調整者〕 C 型肝炎は少なくとも 11 種類の遺伝子型に分かれています。エジプトでは 4 型が主流で、このタイプには残念ながら治療薬のインターフェロン α が効きません。